



災害はいつ起こるか分かりません。訓練に参加して、被害を最小限に！

毎年8月30日～9月5日は防災週間です。

市では、この防災週間に先立ち、8月21日(木)に防災関係機関やボランティア団体の皆さんと一緒に、下里小学校を訓練会場として、震災発生を想定した「総合防災訓練」を実施します。詳しくは防災防犯課防犯係☎470・7769へ。

ご参加ください

総合防災訓練

8月21日(木)
午前8時半～正午
下里小学校
(下里3-11-25)



グラっときたら、火の始末と身の安全確保を！

阪神・淡路大震災から今年で13年が経過しました。震災後も背筋の寒くなるような大規模地震が全国各地で発生し、首都圏においても現在、「東海地震」と「首都圏直下型地震」の2つについては、「いつ起きてもおかしくなく、複合して起こる可能性もある」と言われています。また、集中豪雨や洪水の頻発によって、首都圏および日本各地で毎年のように風水害が発生しています。

万一の災害に備え、被害を最小限に食い止めるためにも、「自らの身は、自ら守る。自分たちのまちは、自分たちで守る」という防災意識を持つことが必要です。この訓練の中で、冷静な行動力を身に付け、防災関係機関等との連携を密接にして、地域の活動体制の強化を図りましょう。

今年の訓練は、8月21日(木)午前8時半～正午、下里小学校(下里3-11-25)を訓練会場として実施します。対象は、下里小学校および下里中学校地域を含む下里3～6丁目の皆さんですが、この地域以外の方もぜひご参加ください。8月20日の前日と当日に、防災無線でご案内します。

なお、災害が発生した場合や、その恐れがある場合は、訓練を中止します。

《訓練の想定》

1 東海地震にかかる予知対応型

気象庁からの異常データ報告に基づき、内閣総理大臣が地震防災応急対策をとる必要があるときに発令する「警戒

宣言」発令の場合に、社会的混乱を防ぐことを目的とした広報訓練を行います。

2 多摩北部直下型地震対応型

多摩北部に震度6レベルの地震が発生し、建物の倒壊や火災、窓ガラスの破損落下、家具などの転倒によって負傷者が続出した場合を想定した各種訓練を行います。

《訓練の内容》

避難誘導訓練=対象地域の自治会ごとに下里小学校まで避難します。学童保育所の児童を下里小学校まで誘導します

緊急道路啓開訓練=不通となった緊急輸送用道路の障害物を取り除き、通行を確保します



応急給水訓練=避難者への水の供給をします

炊き出し訓練=非常食糧の炊き出しをします

ライフライン復旧訓練=電力・ガス・電話の応急復旧訓練をします

救援物資輸送訓練=近隣市との相互応援協定により、救援物資が到着します

応急救護訓練=三角さんを使った応急手当を指導します

救出・救護訓練=中高層建物や倒壊家屋のがれきの中から負傷者を救出し、医療救護所で手当をします

初期消火訓練=バケツリレーや屋内消火栓を使って、初期消火を行います

一斉放水=延焼防止のため、一斉放水を行います
以上のような訓練と、展示・PRコーナーを予定しています。

《訓練参加機関・団体》

東久留米市、東久留米市消防本部、東久留米市消防団、近隣自治体、陸上自衛隊第一後方支援連隊、警視庁田無警察署、東京消防庁、東久留米郵便局、東京ガス株式会社、東京電力株式会社、株式会社NTT東日本、東京都トラック協会、東久留米市建設業協会、東久留米医師会、東久留米市歯科医師会、自治会、自主防災組織、東久留米市交通安全協会、東久留米市防犯協会、東久留米市赤十字奉仕団、東久留米災害防止協会、東久留米市視聴覚研究会、東久留米CPR友の会、NPO法人日本救難バイク協会東京多摩支部、東久留米市接骨師会、東久留米市被災建築物応急危険度判定員連絡会、東久留米建築設計協会、防災まちづくりの会・東久留米、東久留米市獣医師会、東久留米防火女性の会、東久留米酒販組合、東京都LPガス協会東久留米支部、東久留米市身体障害者福祉協会、東久留米市ろうあ協会、東久留米市社会福祉協議会、東久留米国際友好クラブ、その他防災関係機関

(順不同)

訓練二日サイレンが鳴ります

訓練当日(8月21日)の午前8時43分に、警戒宣言発令を知らせるサイレン(45秒鳴り、15秒休み、3回繰り返す)を市内全域で鳴らします。

これを合図に、各ご家庭では、火の元の点検や水のくみ置きなど、身の回りの安全確認と訓練を行ってください。

災害に備えて、家族会議を！

もしものとき、家族がバラバラでは困ります。次の例のようなテーマで家族会議を開いて、連絡方法や避難場所などを確認しておきましょう。

家族の役割

火の始末をする係、電源(ブレーカー)やガスの元栓を止める係、お年寄りの安全確保をする係、持ち出す荷物の分担など。

消火について

消火器や三角バケツの置き場所の確認と使い方。

家族間の連絡方法

電話、ファクス、玄関の張り紙な

どを使い、安否の情報を伝えるように話し合います。親戚や知人を連絡中継地にした、伝言センターを利用する方法もあります。

避難場所の確認

自宅からのいつ避難場所や避難所も全員で確認し、落ち合える場所を決めましょう。

避難経路の安全確認

いつ避難場所や避難所へのルートを確認。また、実際に歩いて避難経路の安全を確認しておきましょう。

非常持ち出し品のチェック

非常食や飲料水などが古くなっ

ていないかチェックしましょう。

家具転倒防止対策や整理整とん

家具は転倒防止がしてありますか。整理整とんの大切さも話し合います。



乳幼児・病人などの避難方法身軽に動けない家族を避難させる方法を考えましょう。

地震情報の入手方法

携帯ラジオは必需品。うわさやデマに惑わされないように話し合っておきましょう。